

第1号議案資料

社会福祉法人 真雅

令和2年度 事業報告書

長浜拠点

<長浜老人福祉>

(地域密着型通所介護) 恒富東デイサービスセンター 1～2P

(居宅介護) ケアプラン真雅 3P

(地域包括支援センター) 延岡市恒富東地域包括支援センター 4P

<長浜障がい福祉>

(生活介護) 障がい者生活介護サービスセンターながはま 5～6P

北川拠点

<北川老人福祉>

(訪問介護) 訪問介護事業所さくら 7P

<北川障がい福祉>

(生活介護) 障がい者生活介護サービスセンターきずな 8～9P

(特定相談支援事業) サポートセンターながはま 10P

(訪問・重度訪問介護) 訪問介護事業所さくら 7P

<有料老人ホーム>

(公益事業) 有料老人ホームえのたけ 11P

<障がい者専用住宅>

(公益事業) 向陽の杜のべおか 11P

平原拠点

<平原障がい福祉>

(就労継続支援事業) 就労継続支援B型作業所 ラ・ベルファム延岡 12P

令和2年度
恒富東デイサービスセンター 事業報告書

1：概要

恒富東デイサービスでは、家庭的な雰囲気の中「心寄り添う介護」をモットーに、その人らしく生活できるお手伝いを理念におき、住み慣れた地域での生活を支援。

2：事業状況

(1) 利用者状況

前年度と比較すると、利用中止者が少なく、各曜日の登録状況も安定していた。出席率も年間平均87.85%で、一日平均15名。出席率90%を超える月も多かった。コロナウイルス感染症の影響で、ショートステイ受け入れが中止になる時期もあったのも出席率に大きく影響したと思われる。

また、介護度も施設入居の方は重くなる一方で、在宅の方は認定が軽くなる傾向が見られた。認知症の進行や、車椅子利用の方が増えてきている。

＜新規及び中止者数＞ 新規…9名 中止…5名

(2) 施設からの受け入れ

有料老人ホームえのたけより17名、かわらぎきの杜8名、さくらの杜2名受け入れ。

※令和3年3月時点

(3) 体験利用の推進・居宅事業所への活動

居宅事業所からの紹介で、体験利用や見学の受け入れも増え、利用に繋がるケースも多かった。

(4) その他

＜介護度別＞

要介護1…13名 要介護2…9名 要介護3…11名 要介護4…7名 要介護5…7名

＜平均介護度＞ 要介護 2.6 ＜平均年齢＞ 男性 79.17歳 女性 87.83歳

＜地域別＞

出北 5名 長浜 5名 浜砂・東浜砂 0名 別府 4名 方財 5名 中島 1名

※令和3年3月時点での登録者統計

＜曜日別登録＞ 定員18名/日

	月	火	水	木	金	土
登録者数	18	18	17	16	18	17

3：リスクマネジメント

今年度はヒヤリ・ハット55件（前年+20）、事故報告は10件（前年+2）あった。ヒヤリ・ハットでは車椅子に関する報告多く、次いで異食や徘徊などの認知面での報告が多かった。また、事故報告もヒヤリ同様で車椅子に関する事故が多かった。服薬に関する2件の事故報告があったが、早急に管理体制の見直し等を行った。いずれの報告も、発生後すぐに職員間でミーティングを行い再発防止や、情報共有を行っている。

4：年間活動～行事・内部研修・防災訓練～

	行事	運営
4月	園芸	職員会議、勉強会 (コロナウイルス防止・嚙下について)
5月	お買い物(中止)	職員会議 勉強会(急変時の対応)
6月	おやつ作り(中止)	職員会議 勉強会(熱中症)
7月	おやつ作り(中止)	職員会議 勉強会(コロナウイルス感染症対策)
8月	夏祭り(簡素化)	職員会議・第1回運営推進会議(中止) 勉強会(食事介助・接遇)
9月	敬老会(簡素化)	職員会議 えのたけ夏祭り(中止)
10月	ドライブ(中止)	職員会議 勉強会(ヒヤリ・ハット、事故報告)
11月	鮎食事会(中止)代替え→焼き芋会	職員会議勉強会(コロナウイルス感染症)
12月	クリスマス会	職員会議 勉強会(中止)
1月	新春茶話会・初詣	職員会議 勉強会(中止)
2月	おやつ作り	職員会議 勉強会(次年度計画)
3月	花見ドライブ	勉強会(業務見直し) 第2回運営推進会議(書面報告)

(1) 行事

新型コロナウイルス感染症の為、中止した行事が多く、感染状況を確認しながら計画を見直し、簡素化や代替えで行った。方財保育園とのふれあい交流会も中止となり、敬老会は外部よりお弁当を取り、レクリエーションをお祭り風に行い簡素化した。

(2) 内部研修・防災訓練

内部研修は予定を変更し、コロナウイルス感染症に纏わる勉強会を多く取り入れ、感染症対策に努めた。防災訓練に関しては、新型コロナウイルス感染症予防の為実施を見合わせた。

5：運営推進会議の実施

新型コロナウイルス感染症予防の為、第一回は中止し、第2回は書面報告を行う。

6：新型コロナウイルス対策

利用者様の座席の間隔を確保し、各テーブルに飛沫防止パネルを設置。送迎車両、室内の消毒を徹底し、利用者様、職員のマスク着用・検温、また、状況に応じては利用・出社を一定期間自粛するよう協力を呼び掛けている。

以上

令和2年度 事業計画報告書

事業所名

ケアプラン真雅

取り組むべき課題

重点目標(理由、数値目標を含む)	目標達成の為の具体的な活動
1 安定した事業運営の維持	<ul style="list-style-type: none">・ 介護支援専門員1人当たりの標準担当件数である35件を目標にし概ね達成。増員もあり新規利用者を増やしていく。・ コロナ禍の中で、体調管理やコロナ対策を講じ業務に関しても状況に応じた対応またソフトを活用し滞ることなく運営できた。
2 介護支援専門員としての資質の向上	<ul style="list-style-type: none">・ コロナの影響もあり外部の研修自体が少なくスキルアップの機会やネットワークづくりの場がなかった。・ 9月から毎月事業所内でOJTを実施。スキルアップを図っている。
3 医療との連携強化	<ul style="list-style-type: none">・ コロナの影響で医療機関との連絡調整が難しい場面もあったが概ね入退院時の情報交換はできている。・ 連携加算の算定も随時おこなっている。
4 書類整備の徹底	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍で訪問を控えたり、会議を開催しなかったりしたためこれまでと違い書類作成や署名捺印等が思うようにいかない状況もあった。不備がないように毎月相互に書類の確認を実施した。
5 苦情に対する迅速かつ適切な処理	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度は大きな苦情の事案はなかった。毎週月曜の朝にミーティングを実施し各自より支援の進捗情報等を確認し報告・連絡・相談の体制を図っている。

令和2年度 事業報告書

事業所名 延岡市恒富東地域包括支援センター

○運営上の基本的な視点

重点目標	評価
多様化する相談への体制の充実、地域との連携強化を図る	【総合相談支援業務】 ・3職種、生活支援コーディネーター兼認知症地域支援推進員が連携し、様々な相談に迅速に対応することができた。関係機関、地域とも連絡を密にし、早期発見・早期対応に努めた。 ・コロナ禍においては訪問や研修参加が難しい状況でもあったため、研修の充実や地域資源の把握及びネットワーク構築などは十分に行うことができなかった。引き続き連携を強化しつつ適切な支援が行えるよう様々な方法を検討していく。
高齢者虐待への対応、成年後見制度の活用促進を図る	【権利擁護業務】 ・虐待やその疑いがある事例の報告を受けた際には、市役所等と連携し対応する事ができた。担当CMや区長、民生委員などとも協力し、引き続き未然に防ぐ努力を行っていく。 ・以前は、地域住民に対し出前講座等により権利擁護(成年後見制度等)の啓発を行っていたが、コロナ禍においては難しい状況であったため、その他の方法を用いて普及啓発活動を検討していく。また消費者被害防止も並行してすすめ、被害を未然に防ぐよう支援していく。
他職種協働による地域包括ネットワークの整備	【包括的・継続的ケアマネジメント業務】 ・地域の介護支援専門員に対して、生活支援コーディネーター兼認知症地域支援推進員とも連携し、困難事例の相談対応や地域資源の情報提供など行うことができた。 ・引き続き地域の区長や民生委員、推進チームとの顔の見える関係を構築し、連携・協力体制の構築に今後も取り組んでいきたい。事例検討会や研修も時期をみながら検討していく。
適正なサービス利用により地域で安心して生活を継続できるようにする	【介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務】 ・利用者の身体面・日常生活・社会参加・健康面について状況把握した上で、介護予防事業や地域資源等の活用により利用者が主体的となり在宅生活が継続できるよう支援できた。 ・引き続き、利用者自身が有する能力をいかしつつ、生きがいや役割を持って自立した生活が送れるよう、地域の集まる機会や場所づくりに努めていきたい。
地域で暮らす高齢者への支援体制の充実、強化を図る	【一般介護予防事業業務】 ・出前講座(1件)や百歳体操測定(2件)などを通じて支援を要する高齢者の把握や、介護予防のための取り組みを行うことができた。ただし、コロナ禍で集まる場の中止や延期が続いており、転倒や閉じこもりリスクの高い高齢者の状態把握が必要となっている。
人材育成に努める	【実習生受入れ業務】 ・実習日程を縮小してもらって医師会看護専門学校5名の実習生受入を実施することができた(聖心ウルスラ高等学校看護科はキャンセルあり)。九州保健福祉大学からの実習依頼はなかった。今後も医療・福祉の人材育成に協力していきたい。

令和2年度
障がい者生活介護サービスセンターながはま 事業報告書

1. 概 要

生活介護ながはまでは、「明るく、楽しく、安全に」をモットーに、個々の尊厳を大切に、「今日も楽しかった、来てよかった」と思ってもらえる様に支援する。

2. 事業状況

(1) 利用者状況

前期は自己都合で休まれるご利用者様が多く、新規契約の獲得もできなかった。相談支援事業所へ伺い、新規利用者について相談するも契約には繋がらなかった。後期になって新規契約者3名を獲得でき、自己都合で休まれる方も大幅に減少され、利用状況は安定した。

<新規及び中止者数> 新規…3名
<現在の契約者数> 24名（令和3年3月末時点）

(2) 利用者別状況

<障がい支援区分別>

◎区分6：8名 区分5：9名 区分4：3名 区分3：4名 区分2：0名
◎平均支援区分：4.9 ◎平均年齢 男性：48.7歳 女性：40.4歳

<地 域 別>

北浦・北川6名 行藤2名 松山1名 昭和・惣領・中島3名
塩浜・若葉・沖田3名 山月・富美山2名 稲葉崎1名 日の出・萩2名
土々呂・北一ヶ岡2名 野地・野田2名

<曜日別登録>

曜日	区分	6	5	4	3	2	合 計
月		4	6	1	2	0	13
火		5	6	2	1	0	14
水		3	6	1	3	0	13
木		6	5	2	0	0	13
金		4	4	1	4	0	13
土		6	4	2	1	0	13
合 計		28	31	9	11	0	79

※令和3年3月末時点での登録者統計

3. 年間活動～行事・内部研修・防災訓練～

	行 事	運 営
4月	花見ドライブ 茶話会	職員勉強会（新型コロナウイルス感染症について）
5月		職員勉強会（食中毒関連・接遇・マナー）
6月	買い物研修	職員勉強会（介護記録について）
7月	宇目道の駅ドライブ	
8月		職員勉強会（障害福祉サービスについて） 消化・避難訓練
9月		職員勉強会（ヒヤリハットについて）
10月		職員勉強会（コミュニケーション）
11月	道の駅はゆまドライブ	職員勉強会（新型コロナウイルス感染症について、苦情対応と位置づけと役割）
12月	クリスマス会	
1月		職員勉強会（介護技術について）
2月	節分（豆まき）	職員勉強会（重症心身障がい者（児）のケア）
3月	茶話会	職員勉強会（障害者虐待防止法の理解と対応）

(1) 行事

毎年行っている行事に関して、新型コロナウイルス感染防止対策で予定していた外出活動が思うように出来なかった。時期を見計らって感染防止対策を行いながら、ドライブを実行する事ができた。他は室内活動の充実化を図りご利用者様には満足して頂く事ができた。

(2) 施設内部・外部研修及び防災訓練

宮崎県社会福祉協議会が主催する研修等への参加は、新型コロナウイルス感染リスクを懸念し、参加を自粛した。職場内で内部研修の強化を図り、職員の資質向上等に努める事が出来た。防災訓練は年2回実施予定だったが、新型コロナウイルス感染防止対策の為、1回のみ実施した。

4. リスクマネジメント

令和2年度は24件のヒヤリ・ハット報告、10件の事故報告、15件の苦情報告があった。ヒヤリ・ハット報告に関しては報告数が少なすぎる為、今後もヒヤリ・ハットの意義を再周知・徹底に努める。事故報告では、怪我等はなかったが予測ができる事故や注意力、確認不足などでの事故が多かったため、原因究明や再発予防の検討を徹底していく。苦情では、職員の態度、説明や確認不足などが多かった。ご家族様の状況に合わせた対応や配慮など、日々のサービス向上につなげていく。

令和2年度 事業計画(結果)

事業所名 訪問介護事業所 さくら

重点目標(理由、数値目標を含む)	目標達成の為の具体的な活動
<p>1 運営管理</p>	<p>①施設長をはじめ、ケアマネージャーや相談員との連携をとりながら新規利用の獲得ができた。</p> <p>②新規利用者の申し込み時には、施設長、管理者、看護師と情報を共有して連携をとりながら訪問計画に必要なサービスの検討、提供ができた。</p> <p>今年度は障がい、から介護保険に変更になった利用者3名(介護保険、障がいの併用の利用)となった。(現在老人29名)</p> <p>また現在訪問を利用している入居者のニーズに合わせて訪問回数や時間を増やすなどして訪問実績がUPできた。</p>
<p>2 サービスの質の向上</p>	<p>① 訪問時の記録、ヘルパーの記録や声から状態変化やニーズの確認、把握をし利用者、ご家族の意見を踏まえ、他機関と連携しながら訪問計画の作成に努めた。</p> <p>②申し送りや勉強会などで利用者個々の状態や介護、支援方法の変更や状況をヘルパーや各事業所間で共有し統一ケアが出来るように努めた。必要に応じヘルパー個人について検討。必要に応じてケアマネージャーに報告、検討重ね、適切なサービス訪問介護計画書の作成を行い、どのヘルパーが入っても同じサービスが行えるように努めている。</p> <p>③サービスの内容や提供時間の確認、訪問後にチェックを毎回行うことで確実にサービスの提供ができるように努めた。</p> <p>利用者の外出などでサービス提供時間の変更が発生する時は出来るだけ利用者様にも協力してもらいサービスが実施できるよう努めた。変更時には各部署に朝礼、昼礼で変更を伝えた。</p> <p>④訪問時の利用者の状態観察を行い、異常時には施設の看護師に報告を行い、各事業所との必要な連携、対応ができた。</p>
<p>3 訪問介護計画の向上</p>	<p>①利用者様の状態、介護側の立場で問題点、改善点を検討し、状態に合わせた計画を作成できた。</p> <p>②利用者の状態をモニタリングで実施し、看護師、管理者、ヘルパーとサービス提供について検討状態変化時はケアマネージャー、相談員に報告、検討重ね、適切なサービスが提供できた。</p> <p>③利用者や家族の要望、苦情などにその都度対応し、必要に応じて看護師、他事業所と連携し問題解決に努めた。特に利用者からの直接的な要望には1つ1つ説明を行い不満軽減に務めた。</p> <p>④訪問介護『常勤換算』は職員数、訪問時間数が増え毎月2.5以上は確保でき計画できた。</p>
<p>4 人材育成</p>	<p>①月1回の勉強会で、各委員会の事例報告や対策、改善の話し合を行い活動報告を行った。11月はコロナ感染予防対策としての伝達研修も行われた。</p> <p>今年度は外部研修の参加がコロナの影響もあり参加できなかった。</p> <p>介護福祉士実務者研修に2名参加した。</p> <p>②新人ヘルパーに対し1日の業務の流れ、計画書に沿った支援方法を指導し、報告書で再度見直し、本人と確認し習得できた。</p> <p>③職員が話掛けやすい環境が作れるように努め、相談の都度個別に対応し、問題点や改善策と一緒に検討することで心身の負担軽減に努めた。</p>

令和 2 年度
障がい者生活介護サービスセンターきずな事業報告書

1. 概 要

生活介護きずなでは、利用者様との絆を大切にし、心身ともに安定し笑顔で過ごせるよう思いやりを持って支援を行ないます。

2. 事業状況

(1) 利用者状況

<新規及び中止数> 新規 5 名 中止 8 名

<現在の契約者数> 24 名 (令和 3 年 3 月末時点)

※中止 8 名 (向陽の杜退居 5 名、介護保険移行 3 名)

(2) 利用者別状況

<男 女 別>

男 女 比 : 男性 9 名 女性 15 名

平均年齢 : 男性 : 54.7 歳 女性 : 55.7 歳

<支援区分別>

区 分 別 : 区分 6 : 7 名 区分 5 : 8 名 区分 4 : 4 名 区分 3 : 3 名 区分 2 : 2 名

平均区分 : 4.7

<曜日別登録>

曜日	区分	6	5	4	3	2	合 計
月		5	6	4	0	2	17
火		5	4	3	2	0	14
水		4	4	3	2	2	15
木		5	6	1	1	0	13
金		6	5	3	1	1	16
土		4	2	1	2	2	11
日		4	5	3	1	1	14
合 計		33	32	18	9	8	100

※令和 3 年 3 月末時点での登録者統計

3. 年間活動～行事・施設内外研修・防災訓練～

	行 事	運 営
4月	花見ドライブ（中止）	職員勉強会（高齢者虐待防止）
5月	クッキング	職員勉強会（咀嚼嚥下・ソフト食研修）
6月		職員勉強会（食中毒）
7月	七夕創作	職員勉強会（各委員会検討会）
8月	夏祭り（中止）	職員勉強会（感染・褥瘡防止委員会報告）
9月	ドライブ（中止）	職員勉強会（事故防止委員会報告）
10月	ドライブ（中止）	職員勉強会（虐待防止委員会報告） （インフルエンザ対策）
11月	鮎食（中止）	職員勉強会（新型コロナ対策） （身体拘束防止委員会報告）
12月	クリスマス会（中止）	職員勉強会（フード委員会報告及び意見交換会）
1月	書初め	職員勉強会（※感染拡大防止の為中止）
2月	節分（豆まき）	職員勉強会（来年度の事業計画作成）
3月	避難訓練	職員勉強会（障がい者虐待防止・権利擁護）

（1）行事

今年度は新型コロナの影響にて、施設外活動等は自粛せざるを得なかった為、中止となるものが多かった。その分施設内での活動（行事）を強化し、コロナ対策を徹底しながら安全に楽しく実施することが出来た。

（2）施設内部・外部研修及び防災訓練

施設内外研修に関して、新型コロナの影響にて施設外研修は中止が相次ぎ参加が出来なかった。その中でオンライン研修が開催され、1件のみ参加する事が出来た。（障がい者虐待防止研修）オンラインで受講し、その後受講者による施設内勉強会を行なった。

防災訓練に関しては、「消火・避難訓練」「土砂災害避難訓練」を行なった。当事業所の建物特性や周辺環境に応じた避難方法等を利用者・職員全員が共有し、万が一災害が発生しても、迅速に非難・対応が出来るよう訓練を行なうことが出来た。

4. リスクマネジメント

今年度は31件のヒヤリ・ハット報告、11件の事故報告、1件の苦情報告があった。転倒に繋がる行為または転倒事故が多くを占め、その都度防止に関するミーティングを行ない、安全管理に努めた。

令和2年度事業計画報告書

事業所名 サポートセンター ながはま

重点目標(理由、数値目標を含む)	評価
<p>1 適切な事務処理を実施する</p>	<p>①令和2年度は新規5件の受け入れができた。 介護保険に移行の為、3名の方が計画相談を中止となった。</p> <p>②市の窓口訪問時や相談事業所の定例会議等に出席し、情報収集に努め、新規利用計画に繋げた。</p> <p>③常に計画書に目を通し、事前に変更箇所の分析を行った。</p> <p>④市の提出書類は確実に提出できたが、担当者会議等は新型コロナウイルスの影響を鑑みて電話対応をすることがほとんどであった。</p> <p>⑤相談件数やモニタリング回数が増えた為、月遅れの処理が出てきたが、実績報告は確実にできている。</p> <p>⑥国保連に正確な請求処理が出来た。</p>
<p>2 適切で質の高い計画相談支援を提供する</p>	<p>①不明点は市に相談したり、他の相談支援専門員や関係事業所の協力を得ながら対応を検討した。</p> <p>②本人や家族の話を基に抱えている問題点を様々な視点から考え、本人や家族の望むサービス等利用計画を立てられるように心がけた。</p> <p>③現場に赴いて本人の状況を確認し、関係事業所と連携を図りながら本人のニーズの充足に努めた。</p> <p>④アセスメントをしっかりと取り、本人に必要なサービスの提供につなげられた。</p> <p>⑤利用者の立場になり中立・公正な視点で相談支援専門員としての立場を十分に理解し、総合的支援を行った。</p>
<p>3 情報の共有化を行う</p>	<p>①担当者会議以外でも関係事業所と連携を図り、少しでも問題解決につながるように情報共有に努めた。</p> <p>②担当者会議後はサービス管理者がその都度、職員に報告した。また前日の担当者会議の内容は、朝礼にて報告を行った。</p> <p>③自宅に訪問したり、電話等で現状等の把握をし、御家族との信頼関係の構築に努めた。</p> <p>④障がい福祉課の窓口訪問や他の相談事業所とは常に連携を図った。</p> <p>⑤情報の共有化と守秘義務は徹底できた。</p> <p>⑥計画が本人に寄り添ったものであるか、支援者側に偏っていないか専門員と利用事業所の担当者と確認し、課題を共有できた。</p>

令和2年度 事業計画(結果)

事業所名 有料老人ホームえのたけ 障がい者専用住宅「向陽の杜のべおか」

重点目標(理由、数値目標を含む)	目標達成の為の具体的な活動
1 生活支援サービス	①2月度満床。入居者 向陽の杜 28名 えのたけ 26名 コロナ禍において事前の施設見学が出来ない為入居に繋がらなかった (2床空床⇒向陽の杜2月末現在) ②利用者様の尊厳を尊重及び、個人の意向や希望に沿った支援ができた。 ③面会時間の明確化は図り、同時に家族の事情や、現状を報告理解して都度相談、臨機応変に対応した。 ④常に入居者の立場に立ち、対応した。 ⑤他機関との連携を図りながら、利用者に負担無く、施設長と相談、連携できた。 ⑥季節行事は新型コロナ感染対策の為すべての行事を実施出来なかった。
2 健康管理及び緊急時の対応	①日々の健康管理は徹底できた。 ②協力医と連携し、健康保持・異常時の早期対応に努める事ができた。 ③家族との連携を密に取り、実施する事ができた。
3 感染症対策	①勉強会等を実施し、専門性の向上に努めた。 ②マニュアルを作成し、状況に応じて活用できた。
4 食事の提供	①管理された食事を、適温にて提供できた。 ②補助具の活用や食事形態の工夫をし、自己摂取を促す支援ができた。 ③嗜好に考慮し、時節の行事に応じた食事を提供する事ができた。 ④安全を考慮しながら、楽しく食事を摂ってもらう事ができた。
5 生活相談・助言	①月別の勉強会と日々の周知にて理解し実行できた。 ②利用者様の尊厳を尊重及び、個人の意向や希望に沿った支援ができた。 ③家族との連携を密に取り、実施する事ができた。 ④苦情等は、誠意を持って迅速な解決に努める事ができた。
6 安全対策	①年2回の点検・整備等、実施できた。 ②年2回、防災訓練(火災訓練)を実施し、対応強化に取り組んだ。 ③セキュリティは強化できた。

令和2年度 事業報告書

事業所名：就労継続支援B型事業所 ラ・ベルファム延岡

理念：個々の尊厳を大切に、精神的・肉体的能力を高め、社会において自分らしく自立した生活を
目指す。

重点目標 (理由、数値目標を含む)		評 価
1	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの、性格・体調を把握し相談員と連携をとりながら対応する事ができた。 ・生産活動では、コロナの影響で外部販売が出来なくなり、レストランのお客様も減り、8月から弁当を始めるが、出来る人・出来ない人に分かれてしまい平等に作業分担を行う事ができなかったが、今後は利用者が共に働きやすい職場を支援していく。
2	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で8月より弁当・くらこん・虎彦を行う。 ・12月にコロナの影響でくらこんの売上げが減り、作業が3月で中止になった。 ・内職在宅ワークをいろんな店に頼みに行くが、コロナの影響で契約まで至らなかった。引き続き様子を見ながら検討する。
3	情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業所支援と話し合い情報共有化を行う事ができた。 ・虐待を防止する為の取り組み方、日常的な支援場面の把握チェック モニタリング ヒヤリ・ハット報告 苦情解決制度の活用などを職員へ 周知徹底し、情報共有化する事ができた。
4	営業エリア 利用者増加 作業の拡張	<ul style="list-style-type: none"> ・営業エリアを広めたことで、見学も増え利用者増加につながった。 ・開所日を週6日にしたことで、利用者が働きやすい環境はできたが曜日に 寄っては少なくなったので、新規利用者・利用増を強化する。 ・1日平均10人に安定化できたが、引き続き支援していく。
5	健康管理 衛生面	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態の観察(観察、自己管理の徹底)が出来ているが コロナ対策も踏まえて、送迎時の検温・昼からの検温を実施する。 手洗い、アルコール消毒も実施する。 ・環境整理も常に意識出来た。